

市民参画推進に関する市民会議（5年度 第1回）会議概要

（日程・場所・出席者）

- （日 程） 令和5年9月7日（木）15:00～16:00
- （場 所） 鹿児島市役所 別館3階 300会議室
- （出席者） 委員10名
- （事務局） 市民協働課

（会議の次第・配付資料）

【会次第】

- (1) 開会
- (2) 協議
 - ①これまでの市民参画手続の実施状況
 - ②4年度の市民参画手続の実施状況
 - ③5年度の市民参画手続の実施予定
- (3) その他
 - ①前回の市民会議で出された主な意見に対する対応
 - ②今後のスケジュール
- (4) 閉会

【配付資料】

- 資料1 市民参画推進に関する市民会議委員名簿
- 資料2 これまでの市民参画手続実施状況一覧表
- 資料3－1 4年度市民参画手続実施状況一覧表
- 資料3－2 4年度パブリックコメント実施状況一覧表
- 資料3－3 4年度市民参画手続実施状況詳細
- 資料4 5年度市民参画手続実施予定一覧表
- 資料5 過去の市民会議で出された主な意見に対する対応
- 資料6 今後のスケジュール

委員の意見・質疑等

【これまでの市民参画手続の実施状況】

1	<p>(委員) パブリックコメントの実績欄に、意見を計画等に盛り込んだ件数を加えてはどうか。</p> <p>(事務局) パブリックコメント手続においてA区分とした数については、資料3-2に4年度実績は記載している。 いただいたご意見は検討させていただきたい。</p>
2	<p>(座長) 4年度の意見提出者数、意見数が前年度に比べて少ないのはなぜか。</p> <p>(事務局) 3年度の42施策に対し、4年度は14施策を実施しており、大きく減少している。これについては、3年度は本市の最上位計画である総合計画の改定に伴う個別計画の見直しがあったためであり、必然的にパブリックコメント等の市民参画手続も多く実施された。 4年度が少なかったのではなく、3年度が非常に多く、このような年が何年かに1回の周期であるということである。</p> <p>(座長) 毎年均等にパブリックコメント等を行っているというより、上位の大きな計画に沿って、ぶら下がっている事業等のパブリックコメントが発生するために、年度ごとの濃淡があるということ、ぜひこの会議で共有しておきたい。</p>

委員の意見・質疑等

【4年度の市民参画手続の実施状況】

1	<p>(委員) 1番の「多文化共生推進指針」について、外国人の方からも意見をいただけるように資料を作ったとのことだが、意見提出者数23人のうち、外国人の割合が分かれば教えていただきたい。</p> <p>(事務局) 担当課に確認したい。</p> <p>(座長) 意見提出者の中に多文化共生の当事者となる外国人の方がどれくらいいるのか、どこの国・地域の方かということは情報として把握していれば、今後この施策の反映に資すると考える。</p>
2	<p>(委員) 「地域と共に創るまちづくりプラン」について、地域ごとのニーズや違いを教えてほしい。</p> <p>(事務局) 鹿児島市と合併した各地域について、吉田は吉田小跡地、桜島であれば観光施設、喜入であれば鹿児島ユナイテッドFC関係施設等、各地域の資源を活用しているという違いがある。各地域がそれぞれ目標としているところについて、紹介させていただく。 吉田地域については、子どもの笑い声響く吉田のまちづくりを理念に地域の活力・潤いの創出とにぎわいのある地域を目指す。 桜島地域については、地域の活力とにぎわいの創出により、地域住民が住んで良かった、住み続けたいと思える地域を目指す。 喜入地域については、地域関係者と広く連携し、特色ある資源等を生かした個性豊かな取組みを通じた地域づくりを進める。 松元地域については、住民と行政の共創による活性化の継続的な推進と、人と人がつながりを感じられる一体感がある地域づくりに取り組む。 郡山地域については、自発的かつ持続的で魅力ある地域づくりを進めることにより、地域住民の生活を豊かにし、活気ある地域の形成を目指す。</p> <p>(座長) 地域ごとの特徴、特性を審議会で拾っているというところが資料からも読み取れたため、こういう取り組みをぜひ、今後はパブコメやワークショップなど、様々な方法で可能な限り市民の意見を集めていただきたい。地域毎の特性が非常によく見える良い資料で、かつ審議会が活発に機能していると感じる表現が多くあったため、コメントした次第である。</p>

委員の意見・質疑等

3 (委員)

意見交換会などのパブリックコメント以外の手続について、臨機応変に実施できるのか。

(事務局)

各施策について市民参画手続を実施する場合、原則パブリックコメント手続を実施することとしている。その中で、パブリックコメント手続では素案がまとまった段階で市民に広く意見を求めることができるが、作り上げていく過程での意見はもらうことができない。しかし、意見交換会等については、予算が必要になることがある。

各施策を策定する中で、必要な手続きとして意見交換会、ワークショップ、アンケート等の手続を実施するのは所管課で判断している。その中で、市民協働課としては、各施策を実施するうえでパブリックコメント手続と他の市民参画手続を組み合わせさせていただき、各課に要請している。

(座長)

あくまでも年度計画として、複数手続きを組み合わせるよう要望事項を各課に出しているという事であれば、年度途中で新たに手続を付け加えるのは現時点では難しいという理解でよいか。

(事務局)

予算を伴うようなものは、なかなか難しいと考えている。

(座長)

柔軟な対応は現時点では難しいが、複数の方法を組み合わせるようという要望は各所管課に出しているということである。

委員の意見・質疑等

(委員)

パブリックコメントについて、様々な場所に設置し、情報を必要とする方に届くよう周知されており、とても良いと感じた。
また、提出方法について、意外と郵送が多く、電子回答やメールがあまり広がっていないという感想を持った。

(座長)

郵送でのパブリックコメント提出が多いが、集約する立場として、何か手書きの方が意見が書きやすいといったエピソード等あるか。

4

(事務局)

例えば住宅課の「市営住宅条例改正条例の素案」について、郵送が多い状況である。これについては、市営住宅の管理人の方が、各家庭にお配りしたこともあり、あるいはご意見を出された年齢層にもよると考えられるが、今お示しているような提出方法となっている。

(座長)

人を介在すると、非常に意見が集められるというヒントでもあろうかと思う。
SNSも活用していくところかと思うが、対面というのも実は、コロナ禍にあっても重要だったと感じさせるデータと捉えている。

委員の意見・質疑等

5	<p>(委員) 今後開発されるであろう鹿児島市のアプリを活用した意見提出も想定されるが、手書きを含め、様々な手段で意見提出できる方がよい。</p>
6	<p>(委員) パブリックコメント意見提出者の年代を把握しているか。</p> <p>(事務局) 令和4年度実施分については、1番多い世代が、70代 16.1%、2番目が60代 15.9%、3番目が20歳未満 15.6%であった。</p> <p>(委員) 上の年代と下の年代がほとんどを占めている。</p> <p>(事務局) 下の年代が多いのは、「こどもの未来応援条例」の影響もあると思う。</p> <p>(座長) 1点注意しなければならないのは、施策毎にその対象となる層がある程度固まってくることである。鹿児島市政全体についてそのような意見かという違うため、それぞれの事業特性によって、興味関心の強い層が意見を出しているというように理解するのが妥当なところではないかと考えている。</p> <p>(委員) 鹿児島市に住みよいまちを作るためには、若い世代(30~50代)の意見も欲しいと思ったので、述べさせていただいた。</p> <p>(座長) 幅広い年代から意見をもらうために、今後は意見提出ツールを使い分ける必要があるのではないかと。</p>

委員の意見・質疑等

【5年度の市民参画手続の実施予定】

1	<p>(委員) まちかどコメントへのアンケート依頼月とパブリックコメントの時期が重なる際は、パブリックコメントへの協力を呼びかけてはどうか。</p> <p>(事務局) まちかどコメントは、登録したコメントに対して市政に関するアンケート調査を実施することで、市民の意見やニーズを把握し、市政運営の参考とするとともに、市民の方の市政への関心を高めることを目的としている。 令和5年度は無作為抽出で依頼した中で承諾いただいた方、公募の方を含め401の方に「まちかどコメント」として登録いただいている。 まちかどコメントの方は、市政に興味がある方だと思うので、強制と受け取られないような形での案内を検討したい。</p>
2	<p>(座長) 関心が低い事業についても、多くの意見がもらえるよう工夫して欲しい。</p>
<h3>【その他】</h3>	
1	<p>(座長) 今後もこの会議で出た意見が反映され、本市の市民参画手続が推進されるよう運営していきたい。</p>